

2 臭気の発生

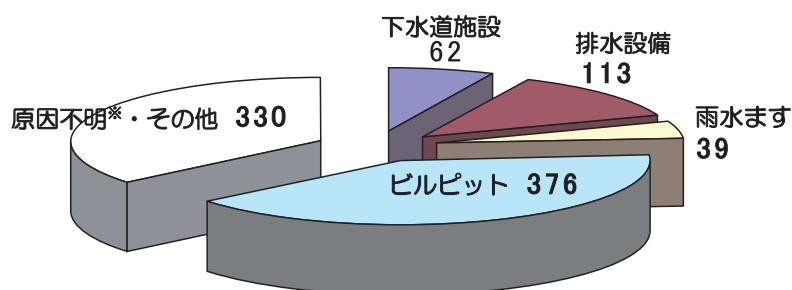
- 臭気は、雨水ますや汚水ますを介して臭うため、下水道局に苦情や問い合わせが寄せられることが多い。
- 臭気は、発生後、ほとんどがすぐ消えるため、原因を特定できない場合も多い。
- 繁華街では、臭気に関する苦情が多く寄せられており、その多くが「卵の腐ったような臭い（硫化水素）」である。これらのほとんどは、下水道施設よりも主に地階を有するビルのビルピットから発生し、雨水ますや汚水ますを通じて発散するものと考えられる。ビルピットからの臭気を抑制するためには、ビル管理者による適切な維持管理が重要である。
- 下水道施設については、水再生センター、ポンプ所において、防臭カバー、脱臭設備を設置するなど、日常発生する臭気の対策を進めてきた。今後は、さらに、ポンプ所に流入した砂やゴミの除去・搬出作業時に発生する臭気の対策を進める必要がある。下水管きよについては、臭気の発生原因となるスカムや土砂の溜まりやすい伏越し部の改善をモデル的に実施してきた。今後、改善策を拡大していく必要がある。

表2-2 臭気の問い合わせ・苦情件数の推移

	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度
臭気苦情件数	963 (74%)	1,189 (74%)	1,213 (74%)	1,252 (72%)	1,166 (69%)	920 (58%)

上表の（ ）内はお客様の声総件数に占める割合

図2-12 臭気の問い合わせ・苦情（920 件）の内訳（平成 15 年度）

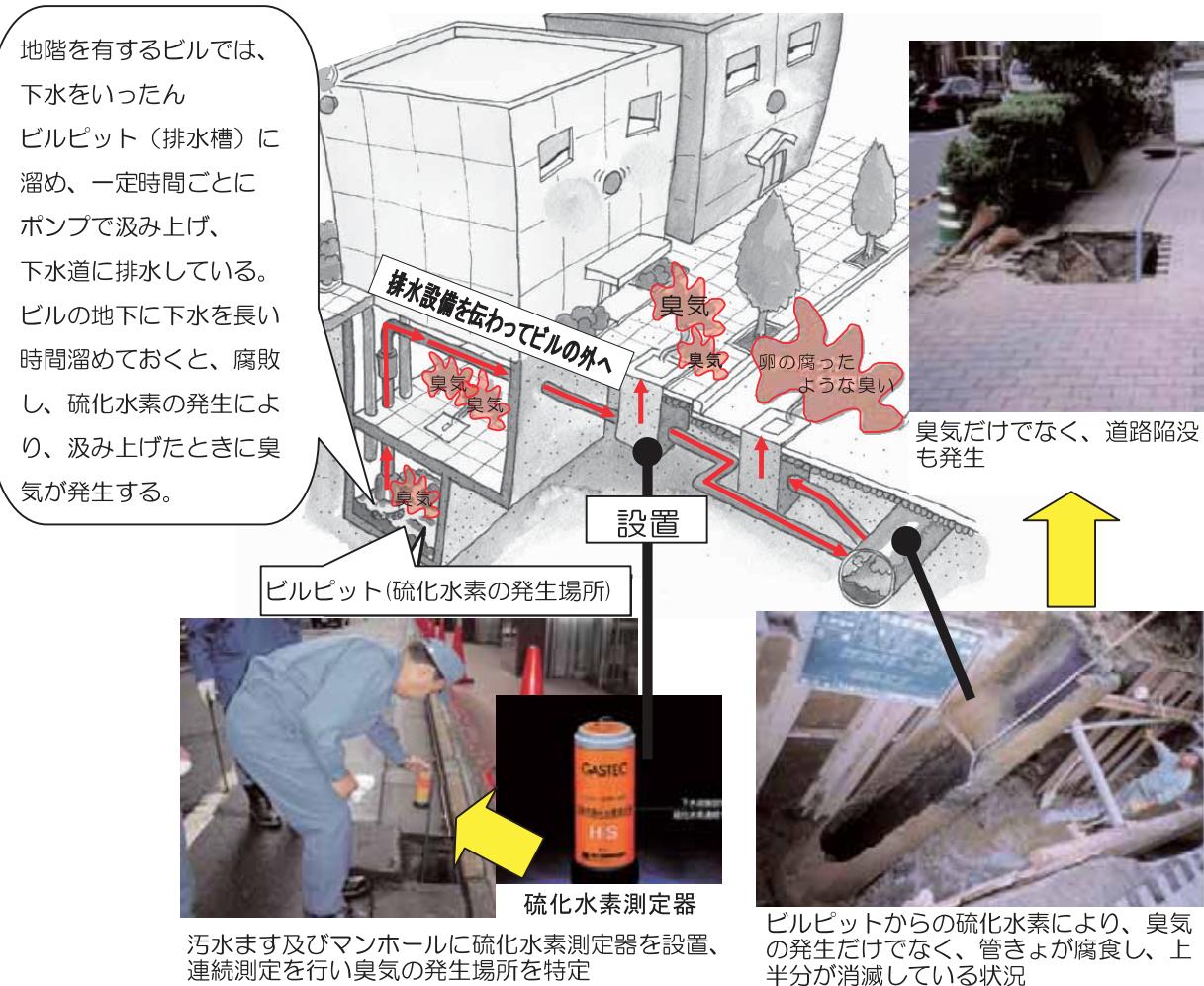


※臭気は、発生後、ほとんどがすぐ消えるため、原因を特定できない場合も多い

表2-3 区部における臭気の問い合わせ・苦情が多い地区
(平成 7 年度～平成 13 年度までに 50 回以上あった地区)

新宿地区、 銀座地区、 麻布地区、	渋谷地区、 日本橋地区、 上野地区	新橋地区、 神田地区、
-------------------------	-------------------------	----------------

図2-13 ビルピットからの臭気



3 震災対策

- 阪神淡路大震災では、枝線管きょとマンホールの接続部に被害が集中的に発生し、避難所のトイレの水が流れなくなるなどの混乱が生じた。
- 震災時におけるトイレ機能を確保するため、区部の避難所や災害拠点病院などに指定されている約2,000箇所を対象に、これらの施設の排水を受け入れる枝線管きょについて、マンホールとの接続部の耐震化を進めてきた。
- 具体的には、接続部を柔軟性のある構造に変更することにより、耐震性の向上を図っている。また、公共汚水ます・取付管については、地震に強い材質である硬質塩化ビニル製のものに取り替え、水の流れを確保することとしている。

表2-4 枝線管きょ耐震化の実績（平成15年度までの累計）

対策地区	実施箇所
再構築エリア内	198 箇所
そのほかの地区	84 箇所
区部合計	282 箇所